



Vol.004

2020年9月1日発行

OMIYA LIBRARY

芝川と緑に包まれた ひょうたん池

大宮
20景

平成18年に市民が選定した「大宮二十景」の第4弾は「大宮第二公園」です。

『芝川と緑に包まれたひょうたん池』

大宮第二公園は、産業道路の東側に1980年（昭和55年）にオープンしました。芝川の治水対策として調節地を中心的に整備されたもので、大宮公園との間は歩行者専用道路と歩道橋でつながっています。芝川は樋川と上尾を源流とする自然河川で、見沼田んぼの一番低い所を流れています。園内に芝川第七調整池があり、その形から「ひょうたん池」の愛称で親しまれています。

1987年（昭和62年）には、第5回全国都市緑化フェア・「グリーンハーモニーさいたま87」のメイン会場となり、園内に記念の森があります。

今回は、大宮第二公園を芝川の土手から右回りで一周歩いて撮影したスナップ写真とともにご紹介します。

ひょうたん池は、文字通りのひょうたんの形をした池ですが、土手からみるとすごく低くなっています。大雨や台風の時に芝川の水位が上昇すると、自動的に水が門から入って溜まり、芝川が氾濫しないようになります。実際に昨年（2019年）の台風19号の時も活躍しました。

また、園内には、日本庭園・梅林・アジサイ園もあって、いろいろな季節の花を見ることが出来ます。見ごろなどは公園のホームページで見ることが出来ます。

3年前にできたとは思えないほど、立派です。

また、体育施設として、テニスコートと軟式野球場があります。隣の大和田公園にも野球場とテニスコートがあり、プールもあるというスポーツに適した公園です。

今回は、一日いても飽きないほどの緑がある大宮第二公園を紹介しました。「香りロード」のハーブは、何がお好みですか？私は断然「カレー」です。（おむすびを持つていいって、嗅ぎながら食べたい！）



芝生の上には、鳥やトンボなどが共生しています。彼らにとってもみどりが多いこの公園は、天国なのでしょうね。

テニスコートとの間は「香りロード」です。ここでは多数のハーブが植えられています。「カレー」という名前のハーブは、近づくと本当にカレー粉の匂いがしました。ひとつずつ香りをかぎながら歩くのも面白いかもしません。

その先には、「菖蒲田」があります。まん中の橋から見る、両側に咲いた菖蒲がきれいですね。



参考資料
大宮第一公園
(<https://www.omiya2-3.com/>)

文学資料コーナーNEWS

大西民子の一首

一本の木となりてあれ ゆさぶりて
過ぎにしものを 風と呼ぶべく
『風水』より

我が子との死別、夫との別居・離婚など数々の困難に見舞われた民子。
揺さぶる風に耐えて立っている一本の木になにか
共感を覚えたのでしょうか。

文学資料コーナー企画展示
「民子の日常」
9月7日(月)～11月6日(金)

▼次回の企画展
「宮澤章二と大宮」
11月7日(土)
～2021年1月6日(水)

参考資料
『埼玉現代文学事典 増補改訂版』埼玉現代文学事典編集委員会／編
埼玉県高等学校国語科教育研究会／1999
『さいたま文学紀行－作家たちの描いた風景－』朝日新聞さいたま総局／編
『さいたま出版／2009
『行為の意味－青春前期の君たちへ贈る心の詩－』宮澤章二／著
『いま書房新社／2010
『企画展 図録 風と光の詩人宮澤章二』さいたま文学館／編／2015
『Acoreおおみや』2019年4・5月号 アコレおおみや編集室
（アコレおおみや）2019年4・5月号 アコレおおみや編集室

『宮澤 章二』（詩人・1919～2005）



宮澤章二は1919（大正8）年に北埼玉郡三田ヶ谷村大字弥勒（現・埼玉県羽生市）に生まれました。父親の仕事の関係で上京し、東京日本橋箱崎で過ごします。当時の文部省が「虫の光」に代わる卒業式の歌の歌詞を公募した際には、宮澤の「花かをる」が計2118編もの応募作品の中から選ばされました。

大学卒業後、教員となつた宮澤でしたが4年間勤務した後に文筆業に専念するため退職し、37歳の時に第一詩集『あんぶくの臍（へそ）』を刊行しました。宮澤の詩はどこか哀しさの漂う作品が多く、これには若くして両親や兄弟を亡くした孤独感も影響しているのではないかといわれています。

1957（昭和32）年、東京から大宮市吉野町（現・さいたま市北区吉野町）へ転居し、85歳で亡くなるまで大宮で暮らします。移住後は、故郷の埼玉県の各所を舞台にした『埼玉風物詩』を発表し、晩年まで発表を続けていました。また県内の学生に向けた詩の発表にも熱心に取り組み、その中の一篇『行為の意味』は東日本大震災の際に放送されたACジャパンのCMでも引用されています。

詩だけでなく、作詞の分野でも活躍していた宮澤は埼玉県内を中心にして中・高生など約300校の校歌を作詞しました。校歌を構想する際はその地域の風土を調べ、実際に学校を訪ねて歌詞のイメージを膨らませていたそうです。

書館の ご近所さん

氷川参道に面するお店、「PRONTO 大宮区役所店」の店長山田さんにお話を伺いました。

「おすすめの一皿を教えて下さい。『燻りベーコンとトマトの大葉ソース』です。

「大葉の香りが効いていますね。おいしい！トマトの酸味もあってさっぱりといただけます。

夏の限定メニューでお出ししています。他にも「生はちみつのバナナミルク」や「すいかジュース」などはこの季節ならではですね。シーザンごとに新しいメニューが登場しますので楽しみにしてください。

一定番メニューもおいしいんですよね。サイドメニューのイチオシは？

「エビとアボカドのコブサラダ」は生野菜から仕込んで氷の下で保管しているので、みずみずしくレタスのシャキシャキとした食感が楽しめます。他では味わえない自慢のサラダです！

ÉPRONTO(エ・プロント) 大宮区役所店
営業時間(当面の間)
平日8:30~18:00 (LO:30分前)
土日祝9:00~17:00 (LO:30分前)
(12月29日~1月3日休業)

「お洒落な雑誌を目的にいらっしゃる方もいるとか店内に置かれている雑誌は古本屋を周って店の雰囲気によく合うものを探しています。

『おしゃれな雑誌を目的にいらっしゃる方もいるとか店内に置かれている雑誌は古本屋を周って店の雰囲気によく合うものを探しています。

『おいしい野菜教室』『野菜ソムリエ御用達』などは料理の本ですが、プライベートでは東野圭吾などのミステリーをよく読みます。文庫サイズが手軽で好きです。

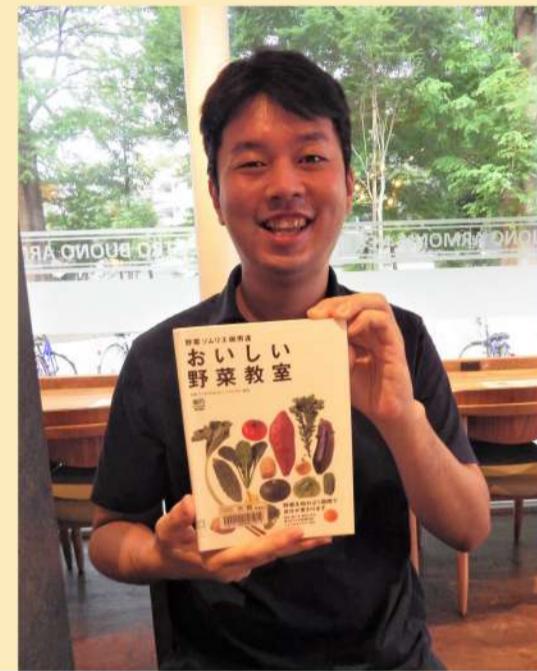
『ÉPRONTO』とは、イタリア語で「準備OK」

『ご飯できましたよ』という意味があるそうです。『自分の居場所』にしてみては？

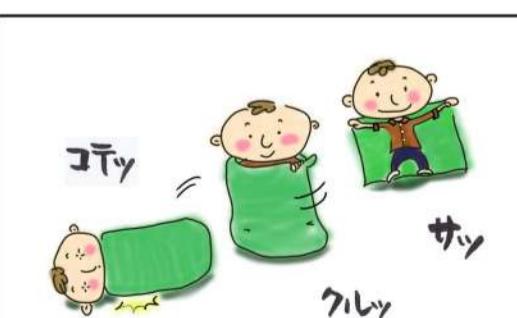
『ありがとうございました！』

次回は「家族」がテーマです。

紹介した本
『おいしい野菜教室—野菜ソムリエ御用達』
日本ベジタブル＆フルーツマイスター協会編
椎出版社 2008年
紹介者：É PRONTO 大宮区役所店 店長・山田さん



ふらへむ 何しよう？



おおみや 読書イベント

第3回 テーマ『ハッピー』

おなかへった

ときどき、小さい頃の食べ物に関する記憶をびっくりするくらい鮮明に思い出すことがあります。

むりやり食べさせられた苦い野菜（菊の花）友達の家の砂糖入りの麦茶、鷹の爪がたっぷり入ったゴボウのキンピラ…。

中でもよく思い出すのは祖母が作ってくれた「フキノトウのあげもち」です。田舎だったので春になるとあちこちにフキノトウが芽を出しました。それをつんできて、うどん粉と一緒にこね、味噌や砂糖で調味し、油で揚げておやつにだしてくれました。とても美味しいで姉や弟と一緒に食べていました。

今回紹介するこのエッセーにも食べ物についての話がたくさん登場します。季節ごとの食べ物にまつわるエピソードが楽しく、挿絵も見事です。読んだらきっと昔の記憶が食べ物と一緒によみがえりますよ。

『荒野の胃袋』
井上荒野著
潮出版社

星の美しい村
鈴木敏史著
教育出版センター



この古い詩集の一節にはいとこに連れられて村まつりに出かける帰り道、何度も立ち止まって星の美しい空を見上げる背景があります。山間の田舎で育った私は子供の頃、いとこの町のお祭りを巡るのが楽しみでした。その神社は長い長い階段を登り切った高台にあり子どもも心に一際星空に近かった記憶があります。

私の実家のすぐそばにある神社では、毎年春にお祭りがあります。女子は稚児や采女、男子は竹の横笛や獅子舞の役割があり、小学生になると冬の間は公民館で毎晩練習をします。お祭り本番にはお母さん方に鮮やかな赤と緑色の衣装とお化粧もしてもらい、神社で舞うのです。何とも恥ずかしいのと、どこか誇らしいのと、いとこや他の町の友達の姿を見つけるとそう思ったものです。

田舎ではつながりが深い分だけ知っている人でも知らない人でも神

社にやってくる人々はこんばんは、と当たり前のように挨拶してすれ

違うのです。そんなもう当たり前ではない昔懐かしい風景を思い出さ

せてくれるあなたの1冊も見つかりますように。

図書館はいつでもお待ちしています。

『星の美しい村 -少年詩集-』
鈴木敏史著
教育出版センター